

文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第42回）議事概要

開催日及び場所	平成30年 3月23日（金） 文部科学省 会計課会議室	
出席委員 (敬称略)	○委員長 有川 博（日本大学 総合科学研究所 教授） ○委員 大谷 益世（公認会計士） 清水 幹裕（弁護士） 田辺 孝二（東京工業大学環境・社会理工学院特任教授） 松浦 亨（北海道大学病院 病院長補佐（病院経営・情報管理担当）、特任准教授）	
審議対象期間	平成29年10月1日～12月31日	
個別審査案件	8件	○議事 (1) 平成29年度第3四半期に締結した契約の概要 (2) 個別審査対象案件 (3) その他
一般競争入札方式	4件	
最低価格方式	2件	
総合評価方式	2件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	4件	
企画競争	4件	
公募	0件	
競争性のない随意契約	0件	
不落随意契約	0件	
事前審査案件	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	個別の審査案件に関しては、審議の過程で検討や見直しをしていただきたいと申し上げた点については適切に対応をお願いすることとし、全体としては問題なく処理されている。随意契約事前確認公募への移行については、異議はなく意見を参考に決定していただきたい。	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>個別審査案件について（以下、審査順）</p> <p>① 大学教育改革の実態把握及び分析等に関する調査研究</p> <p style="text-align: center;">【一般競争入札（総合評価落札方式）】 （高等教育局 大学振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメント・テストに関する調査において、文部科学省としてどういう調査結果が欲しいのかが曖昧である。この仕様で何を求められているのか分からず、応募を諦めてしまう新規の参入者も多いのではないかと。仕様を改善して、競争性を高める環境を確保していただきたい。 ・ 成果物として集計結果だけでなく個票データも得ているのであれば、仕様書にもきちんとその旨明記すべきである。 ・ 参入障壁を減らすための方法を今回の調達で得た様々な手がかりから、きちんと分析していただきたい。 ・ 調査のやりっぱなしになることのないよう、出てきた成果物の活用の仕方について、本委員会での意見を参考に今後工夫していただきたい。 <p>② 平成29年度文化庁メディア芸術祭に係る障害者に向けた鑑賞機会の提供に関する調査研究</p> <p style="text-align: center;">【随意契約（企画競争方式）】 （文化庁 芸術文化課支援推進室）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘を踏まえ、今後検討します。 ・ ご指摘を踏まえ、改めます。 ・ 分かりました。 ・ 分かりました。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 公募要領の事業目的が、事業の全体像を十分に説明できていない。事業の意図をより分かりやすく記載すべきである。 ・ 事業名だけ見ると「文化庁メディア芸術祭」のための調査に見えてしまう。説明を聞いて初めて、もっと一般的な「障害者向けの鑑賞の場」を提供するための方法を模索しているのだと理解できるが、新規の応募者にとっては、公募要領でしか中身を判断できないのであって、これではメディア芸術祭に限定された公募にしか見えない。そのため新しく参入する者が出てこない。競争性への配慮が十分とはいえないので、今回の反省を踏まえ改善していただきたい。 <p>③ 世界の企業財務情報及び特許出願情報の接続データベースの購入</p> <p style="text-align: center;">【一般競争入札（最低価格落札方式）】 （科学技術・学術政策研究所 総務課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り扱える事業者が1者に限られていたのになぜ競争入札の形式を採用したのか。 ・ 落札業者が国内唯一の代理店であるので、次の調達は随意契約方式でということも考えているか。 <p>④ 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン普及事業</p> <p style="text-align: center;">【随意契約（企画競争方式）】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりました。 ・ 分かりました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 落札した業者が唯一の代理店だったというところまで入札当時把握をしていなかった。他にも代理店があるのではと思い、入札による調達を行った。 ・ 本省会計課とも相談の上、検討します。
--	--

(生涯学習政策局 情報教育課)

- ・ 企画競争の審査終了から採択までに1か月程度かかっている理由は何か。
- ・ 採択通知の遅れにより、契約が予定よりも大幅にずれ込んだにも関わらず、当初のままの事業計画書になっている。業者に対して事業計画書の見直しをさせなかったのは望ましくない。
- ・ 採択通知を出す前に実施計画書が提出されている。本来は採択を経て、提出されるものであるので、今後こういうことのないようお願いしたい。
- ・ 研修教材の納品は10月中と公募要領には記載があるが、契約書の上では具体的にいつに設定したのか。成果物の提出時期について契約書にきちんと書かれていないといけない。公募要領には記載されていても契約書に記載がなければ出さなくていいことになってしまう。文科省が契約後事業の実施状況を全く見ていないのではないかと思われてしまいかねない。

⑤ 大学経営を踏まえた施設の戦略的リノベーション及び保有資産の有効活用に関する調査研究

【一般競争入札（総合評価落札方式）】

(文教施設企画部 計画課整備計画室)

- ・ 企画審査員の方の中に、一部の企業との間で利害関係者となる人がいた場合は、当該企業の審査だけでなく、全ての審査を辞退しても

・ 契約の担当者が別の業務で不在にする日が多く、業者との連絡調整がうまくいかなかったためである。

・ 分かりました。

・ 分かりました。

・ 実際にはかなりの回数打ち合わせを行いながら提出してもらってはいたが、ご指摘のとおり契約書上においても責任あるやり方に改めさせていただきたい。

・ 分かりました。

らわないと、公平性を欠いてしまう。また、審査員は5名以上の確保が望ましく、本件の事業内容に鑑みれば、外部の方のみでなく、公平性を保った上で内部職員を審査員として加えることも次回から検討してほしい。

- ・ 6者からの入札があった本件で、落札した業者の入札金額が圧倒的に安かった。この結果についてはどのような分析をされているか。

⑥ 平成29年度武道等指導充実・資質向上支援事業
【随意契約（企画競争方式）】
（スポーツ庁 政策課学校体育室）

- ・ 公募要領には都道府県単位でコーディネーターを配置するとあるが、事業者から提出された提案書には、コーディネーターの配置の記載がない。文科省として期待したことをやらない内容のまま契約するのは問題ではないか。
- ・ この事業の要諦は「指導力の向上を図る、そうした機会を設けること」が一番大きいように思う。それならば、ガイドブックを作っただけで終わらせるという実施計画では、事業の目的としては中途半端さを感じてしまう。
- ・ 団体から提出された実施計画書に、今回とは関係のない内容まで記載がされている。内容として不適切な部分を見直させることなく契約を結んでしまったことは次回以降改善していただきたい。
- ・ 審査した審査委員の一人が、受注した団体に対して厳しい点数をつけているが、文科省の

- ・ 落札業者の受注意欲が高く、企業努力により金額を抑えることができたと聞いている。

- ・ 各団体の規模など勘案した上で、必ずしも全部を実施しなければならないという主旨ではなかった。

担当としては、審査にそこまでの厳格さは求めていなかったという。また、この団体を審査した他の委員の方々の審査コメントを見ても、文科省としての狙いを委員に対して十分に理解徹底させていたか疑問が残る。

- ・ 本件の事業は本来、まずは武道における様々な分野からこの事業に手を挙げてもらいたいという狙いがあったと説明を受けた。しかし、公募要領の狙いを満たさないような実施内容を採択してしまうことは問題である。次回は公募要領上の政策目的を達成するレベルを維持してもらうこと、新規で参加しようとする団体にはそのレベルについてしっかりと指導することを徹底していただきたい。
- ・ 公募要領の書き方だが、説明を聞いて初めてその趣旨が分かるような書き方が多い。文章にもっと責任を持ち、事業の実施目的をきちんと伝えられるような文章を考えていただきたい。
- ・ 以上、本委員会での意見を参考にして業務を続けていただきたい。

⑦ 「高校生のための学びの基礎診断」に関する試行調査・研究事業

【随意契約（企画競争方式）】
（初等中等教育局 高校教育改革PT）

- ・ 5つある事業の中で、A事業とB事業を担当する業者が重複している。各事業で違う業者から企画を提案してもらうという狙いがあったのではなかったか。

- ・ 分かりました。

- ・ B事業については2社応募があり、審査の結果、提案内容がより良かったのがA事業と同じ業者であった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ A事業はB事業の内容を含んでいる。AとBは同じ結果になってしまうのではないか。A事業で行うことをB事業でもう一度同じ業者にお金を払ってなぜやらせる必要があるのか。 ・ 5つの事業をそれぞれ個別に企画競争しようとした意図は何か。 ・ 本件の実施に当たっては、A事業とB事業で重複感がないようにしていただきたい。A事業を選択できる継続団体と、選択できない新規団体、二つを分けることに非常に合理性があるということならよいが、A事業を新規団体も選択してもいいのなら、A事業とB事業が同じ業者がやる場合においては、合体してやっても非常に経済的に効率的にやれるのではないか。 ・ A事業とB事業を担当する業者は子会社に再委託を行っている。年金機構の再委託先問題が最近あったばかりであるが、再委託先の財務状況や履行体制等はチェックしているか。 <p>⑧ 文部科学省 平成29年秋の叙勲勲章伝達式のバス配車 一式</p> <p style="text-align: center;">【一般競争入札（最低価格落札方式）】 (会計課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この時期の調達には繁忙期と重なるというが、業者側の売り手市場となって、金額面で足元を見られるといったことはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ AとBでは対象となる学校が異なるので、結果は必ずしも同じものとはならない。 ・ 本件の公募前に有識者会議に諮って本件のような事業計画を立てたという経緯がある。 ・ 財務状況までは確認していないが、情報漏えいに関して個人情報取り扱いについては相当厳しく行っているとのことで一定の信頼はしている。また、履行体制については、事業の期間内に確認していきたい。 ・ 関東運輸局の公示価格で積算した金額よりも低く、昨年と同じ金額で契約しているので問題ない考える。
--	--

【総括】

- ・ 審議の過程で検討や見直しをしていただきたいと申し上げた点については適切に対応をお願いすることとし、全体としては問題なく処理されている。